

UT/400-iPDC、UT/400 ファミリ

多様なツール群と多彩な他社連携により UT/400 ワールドを形成
V8.5 をリリースし拡張・改良を継続中



岩野秀幸氏

株式会社アイエステクノポート
ソリューション営業部
マネージャー

多様な帳票ユーティリティを 提供するUT/400ファミリ

アイエステクノポートの「UT/400ファミリ」は、IBM i上で稼働する帳票ソリューションとして最も普及している製品である。IBM i上で稼働するため外部PCサーバーが不要、スプールさえあればIBM iアプリケーションの修正や開発が不要、自社開発製品であるため顧客の拡張

要求やサポート要求にきめ細かく対応できる、などの特徴が高く評価され、2001年の発売以来、IBM i帳票プリンティングの高度化・多様化をリードしてきた。導入実績は、「300社以上、500ライセンス以上」という。

ファミリは、スプールの仕分・結合・加工ができる「UT/400-SPL」、スプールデータをCSVやテキストに変換する「UT/400-SDP」、スプールデータを各種メディアに保管する「UT/400-SAV」、ノンプログラミングでDB2 for iからCSVを抽出する「UT/400-D2C」、ノンプログラミングでCSVからスプールを出力可能な「UT/400-C2S」で構成されるが、ファミリのコアとなるのは帳票設計からPDF帳票の生成、多様な出力までをトータルにサポートするグラフィカルPDF作成ツール「UT/400-iPDC」である。

図表 UT/400-iPDCとUT/400ファミリの特徴

主力製品	UT/400-iPDC、UT/400 ファミリー
IBM iとの連携	SCS
対象ユーザー	すべての企業
価 格	122万円～（UT/400-iPDC）

帳票設計エディタが 台数無制限のライセンスフリーに

UT/400-iPDCは、今年2月に「Version 8.5」をリリースした。いくつか重要な機能拡張があるが、ハイライトは、オーバーレイをデザインするためのエディタを標準装備としたことである。「これにより、従来、エディタを使用するPCで

IBM i上で
稼働し
外部PCサーバー
が不要

既存IBM i
アプリケーション
の修正・開発が
不要

自社開発による
きめ細かな
サポート

業務改善に
つながる
多彩な帳票機能

多彩な
アウトプット
各社印刷デバイス・
クラウド配信・
電子帳票

とにライセンス費用が発生していたのが、台数制限なしで使えるようになりました。お客様にとってはコスト削減になるとともに、ライセンス管理の手間が不要になりました」とソリューション営業部の岩野秀幸マネージャーは説明する。このほか、QRコードの文字数の拡張（195桁から1000桁へ）や、オーバーレイの作成・修正後に、その内容をポップアップ表示で確認できる機能などを追加した。「オーバーレイ作成の作業効率が大きく向上します」と岩野氏。

UT/400-iPDCの多彩な機能の中でも、異なるオーバーレイをページごとに設定し自動切り替えも可能な「マルチ・オーバーレイ機能」や、各ページを複製し異なるオーバーレイを設定できる「ページ複製機能」などは、帳票業務の改善にもつながるため、業務の効率化やコスト削減に大きく貢献してきた。

そしてUT/400-iPDCのもう1つの特徴は、オプションで提供される多彩な出力である。このうち「UT/400ダイレクト印刷オプション」は、

富士ゼロックス、キヤノン、コニカミノルタ、理想科学工業のプリンタ／複合機をIBM iから直接制御するための連携モジュールで、各プリンタ／複合機へIBM iからダイレクトに印刷できる。さらに、コクヨS&Tの@Tovasとの連携により、IBM iからシームレスにFAX配信やメール配信が行え、JFEシステムズのFileVolanteとの連携では、IBM i帳票の電子保管を可能にしている。そのほか「iSeriesSite」用のオーバーレイを無償で提供中である。

6

理想科学工業株式会社

オルフィスEXシリーズ

毎分150枚、カラー1枚1.56円、モノクロ1枚0.53円の
高速性・経済性を武器に、IBM i市場に本格参入



森田 敏夫氏
理想科学工業株式会社
市場開発部長



成瀬 雅志氏
理想科学工業株式会社
市場開発部



菊池 達也氏
理想科学工業株式会社
開発企画部 課長

官公庁・学校・一般企業で実績

理想科学工業は、今年2月に「UT/400ダイレクト印刷オプション for RISO」をリリースし、IBM iプリンティング市場への本格参入を果たした。

同社のプリンター事業は、インクジェット方式の高速カラープリンター「オルフィスEX」シリーズと、孔版印刷技術を利用したデジタル印刷機「リソグラフ」の2つを軸に展開されている。このうち、UT/400ダイレクト印刷オプション for RISOを介してIBM iと直結するのはオルフィスEXシリーズのほうで、毎分150枚（片面）、カラー1枚1.56円、モノクロ1枚0.53円という高速性と経済性が、とりわけ目立つ特徴である（最上位モデルのオルフィスEX 9050）。毎

分150枚（片面）というスピードは、本体380万円という価格帯では群を抜く性能である。

同社のプリンターはこれまで、官公庁や学校、一般企業などで幅広く普及してきた。ところが最近になって、「IBM iを使用する物流業や製造業のお客様からの問い合わせが増え、それを背景に検討を重ねた結果、一般企業のIBM iユーザーの間でも、より高速・より低コストのカラー印刷の需要が高まらだろうと判断し、アイエステクノポートと共同で開発したのがUT/400ダイレクト印刷オプション for RISOです」と市場開発部の森田敏夫部長は説明する。

「油性の顔料インク」など
3つの特長

同社が想定するオルフィスEXのユーザーは、「自社内で大量のカラー／モノクロの帳票印刷を、毎日に行うヘビーユーザー」（市場開発部の成瀬雅志氏）である。

オルフィスEXの技術的な特徴は、「油性の顔料インク」「高速用紙搬送」と、「抜群の耐久性」にある。

「油性の顔料インクは高速プリントに適しており、伝票類を荷の外側に貼っても褪色したり滲んだりしない特性があります。また、毎分75枚（150ページ）という最速の両面カラープリントを実現し、さらに他社の高速カラーMFPを圧倒するトータル600万枚の耐久性を備えています。これは、当社が長い年月をかけて取り組んできた成果で、大量の用紙を高速で通しても耐える機構を搭載しています」（成瀬氏）

仕分けを簡単にする自動丁合が標準で搭載されるほか、20ページ（5枚）までの2つ折り加工、60ページ（15枚）までの中綴じ、A4用紙の3つ折り／Z折りなど、後処理を効率化するフィニッシャーがオプションで提供されている。さらに別のオプションで、最大4000枚の積載が可能な大容量給紙ユニットや、最大4000枚の連続排紙が可能な大容量排紙ユニット、プリントから3つ折り加工、封入封緘までを一貫処理するメーリングフィニッシャーも用意している。封入封緘のフィニッシャーは、同社

独自のラインナップである。

「大量印刷の工程を効率化するオプションで、多くのお客様から注目をいただいています。封入封緘対応のフィニッシャーは、現状では IBM i のダイレクト印刷で利用できませんが、Windows や Mac 環境からは一貫処理が可能です」と開発企画部の菊池達也課長は述べる。

オルフィス EX シリーズは、印刷速度とトレイ段数の違いにより 5 機種ある。ランニングコストは消耗品のみで、カウンターによる使用料は発生しない。IBM i 市場への参入では最後発となるオルフィス EX の今後の動向が注目されるところだ。

* 印刷速度、プリントコスト、対応接続オプションは EX9050 に準拠して記載

* UT/400 ダイレクト印刷オプション for RISO は、<http://www.riso.co.jp/ibmi/> 参照

図表 オルフィス EX シリーズの特徴

主力製品	オルフィス EX シリーズ
IBM i との連携	UT/400 ダイレクト印刷オプション for RISO
対象ユーザー	自社内で帳票印刷を毎日に行うユーザー
価 格	本文参照

高速性
毎分 150 枚

経済性
カラー 1 枚
1.56 円、
モノクロ 1 枚
0.53 円

耐久性
トータル
600 万枚

インクジェット
油性顔料インク

多彩な
後処理機構

7

キヤノンマーケティングジャパン株式会社

Satera LBP8900

クラス最高の 50 枚 / 分の大台を突破
高速性・耐久性・運用周りのきめ細かさの特徴



重城 悟史氏

キヤノンマーケティング
ジャパン株式会社
システムパートナー営業本部
システムパートナー事業推進部
システムプロモーション課
チーフ



秋吉 一功氏

キヤノンマーケティング
ジャパン株式会社
オフィスデバイス企画本部
ページプリンタ企画部
ページプリンタ企画課
主管



福田和也氏

キヤノンマーケティング
ジャパン株式会社
オフィスデバイス企画本部
ページプリンタ企画部
ページプリンタ企画課
主任



水沢 洋氏

キヤノンマーケティング
ジャパン株式会社
ドキュメントソリューション
企画本部
ドキュメントソリューション
企画部
ドキュメントソリューション
企画課

います。このスペックなら IBM i ユーザーの高い印刷ニーズに応えることが可能です」と語る。

同社のレーザープリンタシリーズ「Satera」は、ガートナーの調査で 1992 年から 23 年連続で国内シェア第 1 位を続けている。ユーザーの高い支持を維持してきた理由は、上記の高速性・経済性に加えて、ビジネス利用の実情にミートする、運用周りのきめ細かな機能にあるようだ。

その代表例が「MEAP」(ミーブ) と呼ぶプリント機能を拡張する Java ベースのアプリケーションプラットフォームである。プリンタにオプションのソフトウェアをインストールすることで、IC カード認証やローカル認証、分散プリンタへのセキュアな出力、遠隔地のプリンタへの印刷、パネル操作による簡単な印刷ジョブの選択、出力ログの収集と集計・管理などが可能になる。このうち特に利用率が高いのは、「分散印刷のサーバーレス Anyplace Print とログ管理の imageWARE Accounting Manager で、出力方法や出力先の柔軟な選択と、それを正確に把握する管理が求められています」と、オフィ

国内シェア第 1 位を 23 年連続で維持

キヤノンマーケティングジャパンは、2014 年 10 月に Satera LBP8900 を発売し、価格 50 万円未満という価格帯で 50 枚 / 分の大台を突破した(両面も片面と同じ 51 ページ / 分枚)。オフィスデバイス企画本部の福田和也氏(ペー

ジプリンタ企画部 ページプリンタ企画課 主任) は「キヤノンのレーザープリンタで最速のモデル」と胸を張る。そして、「20~30 枚 / 分のデスクトップオフィスプリンタと、100 枚 / 分以上の基幹プリンタとの中間のゾーンが LBP8900 のターゲットです。小ロットで、かつたくさんの印刷回数に対応する高速性・耐久性と、このクラスのレーザープリンタで最も低いランニングコストを誇って

スデバイス企画本部の秋吉一功氏（ページプリンタ企画部 ページプリンタ企画課 主管）は指摘する。

また、売上伝票・納品書・受領書など3種類の帳票を1枚に印刷できるミシン入りの「単票多連式伝票」や、ノーカーボン紙、圧着ハガキ、袋とじ用紙など多様なビジネス用途に対応する用紙を揃えているのも同社の強みである。

ハイエンドのカラー機を 5月に発表

IBM iへの対応は、他メーカーに先がけて実現してきた経緯がある。最初に開発した印刷ユーティリティは、「5577の代わりになるカット紙プリンタが欲しいというお客様のご要望があり、市場でツールを探しましたものの見当たらず、自社開発した経緯があります」と、ドキュメントソリューション企画本部の水沢洋氏（ドキュメントソリューション企画本部 ドキュメントソリューション企画課）は振り返る。ただし、その形態ではオーバーレイ印刷ができなかったため、あらかじめWindows上で稼働する「CCPrint」を開発。しかし、「IBM iだけで運用したいというお客様の声が多く寄せられたため、UT/400ダイレクト印刷オプション for CANONをアイエステクノポートと共同開発し、IBM iからのダイレクト印刷を可能にしました。さらにこのオプションは、給紙カセット切替、両面、ホチキス、2穴パンチなどの制御も可能です」と水沢氏は言う。同社は現在、PCOMM用印刷ユーティリティ、WindowsベースのCCPrint、IBM i完結型のUT/400ダイレクト印刷オプション for CANON

図表 Satera LBP8900 の特徴

主力製品	Satera LBP8900
IBM iとの連携	UT/400ダイレクト印刷オプション for CANON
対象ユーザー	オフィスプリンタと基幹プリンタの中間ゾーンの印刷ニーズをもつユーザー
価 格	45万8000円

高速性
1分51枚

耐久性
トータル
200万枚

MEAP、
各種
ユーティリティ

変形紙・特殊紙
にも対応
(Sateraシリーズ)

国内シェア、
23年連続
No.1

という3種類のIBM i対応印刷ソリューションを揃えている。

最近、IBM iのビジネスプリンティング分野でもインクジェット機の普及が目覚ましいが、「LBPがインクジェット機に取って代わられるケースはほとんどありません」と福田氏。「レーザーの印刷品質になじんでいるユーザーは、後継機もレーザープリンタを選択するようです」と話す。

冒頭で、LBP8900のターゲットを「中間ゾーン」と紹介したが、システムパートナー営業本部の重城悟史氏（システムパートナー事業推進部 システムプロモーション課 チーフ）は、ズバリ「自治体、医療関係、文教関係が目下の販売対象」と言う。「そうした分野では、普通紙に加えて、非定型紙や特殊な用紙への印刷ニーズが少なくありません。当社のSateraシリー

ズには、水平搬送できるタイプなどさまざまあり、お客様の用途に合わせてご提案できる強みがあります」（重城氏）

同社は、この5月にハイエンドのカラー機「LBP9950Ci」と「LBP9900Ci」を発表した。カラー機をリリースする狙いについて福田氏は、「プレプリント用紙にモノクロ印刷をしているお客様から、カット紙にフォームごとカラー印刷する運用に切り替えたいというご要望を多くいただいています。また、モノクロ主体の帳票でも、押印や会社ロゴはカラーにしたいというお客様も少なくありません」と説明する。両マシンのスピードは、片面・両面ともカラー 51 ページ/分、モノクロ 55 ページ/分である（LBP9900Ciは、カラー 45 ページ/分、モノクロ 50 ページ/分）。

8

コニカミノルタ株式会社

出力環境最適化サービス magicolor シリーズ、bizhub シリーズ

プリンタ／複合機とIT サービスを融合させる OPS を展開
クラウドとも連携し多様なソリューション

物流企業DBシエンカーが
OPSを採用し印刷基盤を再構築

コニカミノルタは、2014年から3カ年の中期経営計画「TRANSFORM 2016」を推進中である。3年間でグローバル全体の売上高

を1500億円以上増加させ「1兆1000億円以上を目指す」という意欲的なものだが、その戦略の主軸が、プリンタ／複合機とITサービス



大崎 肇氏

コニカミノルタ株式会社
マーケティング本部
営業統括部 GMA 営業本部
OPS ソリューショングループ
グループリーダー



小竹 祥孝氏

コニカミノルタ株式会社
マーケティング本部
営業統括部 GMA 営業本部
OPS ソリューショングループ
シニアプロジェクト
スーパーバイザー

基づき、当社ではIT サービスとプリンタ／複合機とを融合させたサービス・ソリューションを推進しています」と語るのは、マーケティング本部営業統括部の大崎肇氏（GMA 営業本部 OPS ソリューショングループ グループリーダー）である。

具体例を見てみよう。

ドイツの国際的物流企業 DB シェンカーは 2011 年 6 月に、日本を含む同社のアジア 14 カ国・197 拠点（現在は 205 拠点）の印刷基盤の再構築と運用でコニカミノルタと業務委託契約を結んだ。同社では、アジア地域の船積み書類をシンガポールの地域本社で一括作成し、各地の拠点でオンタイムに印刷する体制を敷いていたが、書類は月間 190 万ページにも上るため印刷業務に高度の生産性と信頼性（故障回避）を求めている。

そこで選択したのが、コニカミノルタの OPS（出力環境最適化サービス）である。コニカミノルタでは、各拠点に散在していたドットプリンタを最新鋭の複合機などへリプレースして最適化するとともに、ペーパーレスの仕組みや個人

認証基盤などを導入して印刷基盤を再構築した。「このようなグローバル契約は、ドイツの自動車メーカー・BMW を含め全世界で多数のお客様と交わしています。BMW とは、ミュンヘンの本社と 6 カ所の生産工場、欧州各地の 50 以上の拠点で展開中です。お客様が目指すトランスフォーメーションを印刷面からご支援するのが OPS です」と大崎氏は言う。

京都大学医学部附属病院がクラウドを利用しセキュアな印刷例

もう 1 つ具体例を挙げてみよう。

京都大学医学部附属病院では、2014 年 4 月に電子カルテシステムと連携しセキュアにインターネット情報を印刷するシステムをサービスインさせた。従来は、セキュリティ確保のため閲覧はできても印刷できない制限をかけていたが、コニカミノルタのクラウド型プリントシステム（セキュアプリント Gateway ソリューション）の導入により、既存の電子カルテシステムを変更せずにセキュアに印刷できる環境を整えた。

仕組みとしては、インターネットの閲覧情報を印刷しようとする、ジョブキューがコニカミノルタのクラウドサービス上の認証サーバーや適合性チェックのサーバーへ送られ、それをパスすると、ローカルのプリンタで印刷可能になるというものだ。

「このソリューションは、通常の印刷と手順が変わらないため、特別な操作を意識する必要がありません。さらに、コニカミノルタのプリンタ／複合機だけでなく他社製デバイスにも対応でき、クラウド上で印刷ログの一元管理も可能です」とマーケティング本部営業統括部の小竹祥孝氏（GMA 営業本部 OPS ソリューショングループ シニアプロジェクトスーパーバイザー）は特徴を説明する。

図表 コニカミノルタ製品の特徴

主力製品	出力環境最適化サービス「OPS」 複合機 bizhub シリーズ、カラーレーザープリンタ magicolor シリーズ
IBM i との連携	UT/400 ダイレクト印刷オプション for Konica Minolta
対象ユーザー	グローバル企業、大企業、中堅・中小企業
価 格	各種

IT サービスと
印刷の
融合サービス

OPS 出力環境
最適化サービス

クラウド
サービス
INFO-Palette
Cloud

認証・
セキュリティ
ソリューション

キンコースの
活用・連携

iMagazine

<http://www.imagazine.co.jp/>

9

コクヨS&T株式会社
@Tovas
多様なツールと連携する帳票配信のクラウドサービス
IBM iからはUT/400-iPDCと連携しダイレクト配信

三浦 洋介氏

 コクヨS&T株式会社
 @Tovas事業開発部
 @Tovas推進グループ
 グループリーダー

短期間・低コストで利用開始

コクヨS&Tの「@Tovas」は、PDFやCSVなどに変換された帳票データを配信するクラウドサービスである。ユーザーが自社でFAX配信やメール配信を行う場合、専用の機器やネットワーク回線を用意する必要があるが、@Tovasではそれらが不要なため短期間かつ低コストでサービスインが可能になる。

3つの特長があり、1つ目はAPI、連携モジュールを揃え、代表的なツール／アプリケーションと連携が可能な点、2つ目は暗号化やウイルスチェックなどのセキュリティと情報リーサビリティに対応し、付加価値のある配信が可能な点、3つ目はFAX・ファイル配信のほかに「ファイル往復便」「私書箱送信」「郵送代行」などのマルチアウトプットに対応している点である。

連携する帳票プログラムには、アイエステクノポートのUT/400-iPDCやウイングアーク1stの「SVF」などがあり、代表的なツールをほぼ網羅している。IBM i上の帳票データは、UT/400-iPDCとその連携モジュールである「@Tovas連携オプション」を用いることにより、IBM iからダイレクトな配信が可能である。このほかDataSpider（アプレッソ）などのデータ連携ツールやWebFOCUS（アシスト）などのBIツール、DataDelivery（JFEシステムズ）などとの連携もある。

2つ目に関しては、今年夏に想定されているe-文書法改正への対応も視野に入れている。@Tovas事業開発部の三浦洋介氏（@Tovas推進グループ グループリーダー）は、

「@Tovasはすでに国の定めた特定認証機関と連携し、証明書の発行やタイムスタンプにより送受信の信頼性を高めているため、e-文書法への対応を意識する企業にもご利用いただけるものと考えています」と説明する。

利用増を見越し配信基盤を拡充

@Tovasは昨年、10周年を迎えた。「ユーザー数は着実に伸びています」と三浦氏は話す。

「帳票のペーパーレス化や電子化に対するニーズは確実に高まり、大きな波が来ていると感じています。ユーザーの中には、電子的な請求書の割合が、2～3年前は平均的に30%程度だったのが80%まで電子化したという企業も出てきています。当社へのお問い合わせも、以前はサービスの概要を求める内容が中心でしたが、最近は@Tovasの利用でどれだけコストを削減できるか、システム連携の方法は何か、など具体的な内容が増えています」（三浦氏）

ユーザー数は約350社。このうちIBM iユーザーは、金額ベースで約4分の1を占める。「UT/400-iPDCとのシームレスな連携によっ

て、あたかも1つの製品のように、IBM iの帳票データの印刷・配信・電子保管を行えるのが大きな特徴です。@TovasはIBM iとの親和性が非常に高く、@Tovasとの組み合わせによって高度なセキュリティ、安定性、事業継続性を実現できます」と三浦氏。そしてさらに、「@Tovasは、EDIですべての帳票のやり取りを実現できているユーザーには向きません。むしろ、EDIを導入しながらEDIでは対応できない業務を抱えていたり、大量の帳票を月末・月初の短期間や1日のうち特定の時間内に配信したりするニーズをおもちのユーザーに合っています。配信の確実性やセキュリティを担保し、ピークに対応できるのが、クラウドサービスである@Tovasの強みです」と語る。

@Tovasは最近、増加するユーザーへの対応としてシステム基盤の大幅な拡充を実施した。ハードウェアのリプレイスと災害対策に加え、アプリケーションのバージョンアップも行い、パフォーマンスを向上させた。「今後、ユーザー数が増え、処理量が急激に伸びても、負荷なくシームレスに拡張できる環境が整いました」と三浦氏は語る。

図表 @Tovasの特徴

主力製品	@Tovas
IBM iとの連携	@Tovasダイレクトオプション(UT/400-iPDC) 各種連携モジュール、API
対象ユーザー	すべての企業
価 格	各種

 帳票データを
配信する
クラウドサービス

 多様な
アプリケーション/
ツールと連携

 セキュリティ
などの付加価値の
ある配信

 マルチ
アウトプット

 外部
サーバー不要、
IBM iと
シームレスに
連携

10

JFEシステムズ株式会社

FileVolante

セキュリティを担保しつつ長期保管・検索・活用を実現
独自技術による高速処理が特徴



青木 秀二氏

JFEシステムズ株式会社
プロダクト事業部
副事業部長、営業部長



大久保 秀樹氏

JFEシステムズ株式会社
プロダクト事業部 営業部
e-ドキュメント営業
グループ長

導入目的は、紙の削減、 コスト削減、運用負荷低減

JFEシステムズの「FileVolante」（ファイルボランテ）は、PDF化された帳票を取り込み、ログイン管理や参照権限などのセキュリティを担保しつつ、長期保管・検索・活用などが行える電子帳票ソリューションである。

IBM i 環境では UT/400-iPDC との連携により、IBM i の帳票データをシームレスにダイレクトに保管することが可能である。また UT/400-iPDC で生成される PDF ファイルを FileVolante へ取り込むことで、FileVolante と連携できる。「IBM i 環境では UT/400-iPDC の利用を推奨しています」とプロダクト事業部の青木秀二副事業部長（営業部長も兼務）は話す。

FileVolante は、PDF データを解析し、独自形式に変換・保存する仕組みをもつ。「そのため、データ量や利用者の数が増えてもパフォーマンスが劣化しない特徴があります」と、プロダクト事業部 営業部の大久保秀樹氏（e-ドキュメント営業グループ長）。「FileVolante は電子帳票に特化したファイルサーバーをもち、検索の際は必要な情報だけを取りに行きます。その点が、データを総なめするデータベース形式の電子帳票システムとの違いで、高速処理とスケーラビリティを実現しています」と説明する。

FileVolante では、PDF 化して蓄積しているだけの帳票データの取り込みも可能。指定のフォルダに入れるだけで、自動で FileVolante の管理対象とすることができる。

導入の目的は、「紙（帳票）の削減が最も多く、よくあるケースは、5577 などの専用プリンタをオープン系プリンタに切り替える際の導入です。業務フローを改善して紙の帳票を減らし、コストダウンと運用負荷の低減を実現するためのツールとして、FileVolante が採用されています。IBM i ユーザーからのお問い合わせは、途切れることなく続いています」と青木氏は語る。

利用が広がる、と同社では期待している。

また同社は、今夏に予定されている税務関係書類のスキャナ保存規制の緩和を受けて、これまで帳簿データ保存ツールとして販売してきた「DataDelivery」（データデリバリー）に、スキャン文書保存機能を追加開発し、5月1日より販売を開始した。帳簿データとスキャン文書を統合的に保存できるようになった「DataDelivery」により、税務に関する各種監査・調査の対応時間の大幅な短縮のほか、ペーパーレス化の推進と内部統制の強化も実現できる。^①

英語と中国語に対応する 多言語版のオプションを追加

今年3月に、英語と中国語（簡体字）に対応する多言語版のオプションを追加した。英語と中国語でも、帳票の表示はもちろんのことファイルのネーミングや文字列検索を行うことができる。これにより、グローバル展開する企業での

図表 FileVolante の特徴

主力製品	FileVolante
IBM i との連携	UT/400-iPDC の利用を推奨（ダイレクトに連携）
対象ユーザー	すべての企業
価 格	100 万円（最小構成）～

電子帳票の
保管・検索・活用
のための機能

高速処理と
スケーラビリティ

重要な
情報を守るな
セキュリティ

業務効率
向上を実現する
システム機能

コストと
運用負荷の削減